

讃岐薬師観音第二十九番一畑薬師四国分霊所

しょうとく いん  
**聖徳院**

0877-49-0829

- 【宗派】 真言宗御室派
- 【本尊】 聖徳太子  
くろうきんしやうにん
- 【開基】 空讃上人
- 【創建】 鎌倉時代
- 【由緒】



聖徳太子は生前、親交のあった曾我氏の領地讃岐の国をしばしば訪れていたと伝えられます。7世紀の半ば、太子は、隋との国交を開くとともに摂政となり、律令体制を整えました。当時から港のあった鵜足津の地を派遣者や官人の休憩場所として利用していたそうです。太子の没後、太子信仰が全国的に広まると、多くの足跡を残した讃岐の国鵜足津の地にその徳を偲び、法隆寺の僧行信により、天平8年(736年)四国の太子信仰の道場として建立されたのが聖徳院の前身とされています。

太子像が造立されたのは、保元3年(1156年)から承元4年(1210年)といわれています。その時造られた七体のうちの一体が後白河院殿作として祀られ、七堂伽藍を有する聖徳院として建立されました。

天承年中(1264年)鎌倉時代、執権北条長時の代、僧空讃上人により真言宗に改宗「神・儒・佛」の精神道場として再興されました。以後、度々戦火や火災があり、大正8年には大火災に遭い、院のほとんどを焼失しましたが、幸いにも聖徳太子二歳立像と鎌倉・南北朝時代の仏像五体は無事残されています。

聖徳太子二歳立像



鵜足ノ松



万灯火まつり



【見どころ】

**太師堂 聖徳太子二歳立像**(県重要文化財、国宝級)が祀られています。向かって立像の右には十六歳孝養像、左には政治を司った時の摂政像があり、聖徳太子が三体備わっているのは類を見ない貴重なものです。脇土として不動明王・兜跋毘沙門天・八祖太師が奉祀されています。

**鵜足ノ松天満宮** 仁和年中(885~888年)には菅原道真公が讃岐の国司として立ち寄り、記念に松をお手植えになりました。地名をとって「**鵜足ノ松**」と名づけられ、火災で焼失するまでは千有余年の風雪に耐え、明治25年には国の天然記念物に指定されていました。

**太子夢つげ 子安観音(町有形文化財)** ある日、僧空讃上人が辻説法托鉢修行の帰り道、正直者で信仰心厚き、弥平・お住夫婦の家の前に村人達の人だかりがありました。何事かと尋ねれば、美しい女性が難産で苦しんでいるとのこと。そこで祈念祈祷したところ、観音の化身(聖徳太子)が現れ、苦しみがうそのように晴れたそうです。以来、太子の夢つげ子安観音としてお祀りしています。

**その他ご案内** 「目の薬師」「子供の無事成長の仏様」として、また交通安全の守護として民衆の信仰を集めている**一畑薬師堂**、鎌倉時代後期の作で町有形文化財として指定を受けている**水子地藏**があります。また、七福神境内には五百坪の庭園があります。

聖徳院は、聖徳太子・菅公ゆかりの多くの奇跡を現わし成就せしめた現世利益を授く寺といわれています。

【主な年中行事】

開運まつり	1月	成人の日、新春の風物詩
春彼岸会法要	3月	3月彼岸の入り
子どものカン虫封治 子どもの無事成長祈願祭	7月	7月の土用の期間中
秋彼岸会法要	9月	9月彼岸の入り
万灯火まつり	8月	夏の風物詩、午後6時頃～
祝七五三詣	11月	